

令和 7 年度 市長【記者】会見 発言要旨

令和 8 年 1 月 6 日(火)開催分

< 開催時間 > 14:00~14:30

< 会 場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 令和8年新年の抱負

< 質疑応答 >

【記者】

1 期目の任期折り返しを迎えられましたが、これまでの 2 年間の振り返りと、今後 2 年間の意気込みをお聞かせください。

【市長】

2年間の振り返りとしては、市民の皆さまにお約束したビジョンを 1 つ 1 つ着実に実行することを大切にしてきました。職員の尽力もあり、この 2 年間は概ね順調に進んでいると感じています。今後についても、掲げたビジョンを前に進めることを基本とし、特に事業推進においてスピード感を重視して取り組んでいきたいと考えています。

【記者】

現在、最優先で取り組むべき課題について、どのようにお考えでしょうか。

【市長】

市の施策は幅広く、どれも市民生活にとって重要であるため、特定の課題を 1 つに絞ることは難しいと考えています。「福井は楽しい!福井は安心!福井は元気!」のもと、各施策をバランスよく、着実に進めていくことが重要だと考えています。

【記者】

福井アリーナについて、現状の課題や市の取り組み、この 1 年間の動きについて教えてください。

【市長】

まずは、アリーナの必要性について、市民の皆さまに理解を深めていただくことが重要だと考えています。議会においても一定の理解が得られており、今後はより具体化していきたいと考えています。経済界が主体となって進めている事業であり、市としても県と連携しながら支援していく考えです。

【副市長】

スケジュールについては、昨日、八木会頭が（年頭の記者会見で）、今年は実施設計を進めるということをお話されました。それに必要な、都市計画の変更や財源確保、周辺整備などについて、県や民間、経済界と連携しながら取り組んでいきます。

【記者】

福井アリーナについて、国の交付金申請を 1 月に行う予定と伺っていますが、現時点で日付は決まっているのでしょうか。

【副市長】

県と調整を行いながら、申請に向けた準備を進めているところです。

【記者】

1 月中という理解でよろしいでしょうか。中旬や下旬など、ある程度の見通しはありますか。

【副市長】

時期としては 1 月下旬頃になるのではないかと考えています。

【記者】

アリーナ建設に関連する埋蔵文化財調査についてお伺いします。当初は 12 月下旬頃から工事開始予定だったと認識していますが、現在の状況はいかがでしょうか。

【副市長】

現在、内部でさまざまな調整を進めており、その関係で少し時間を要しています。

2 月頃にスタートする想定をしています。

【記者】

これまでショッピングセンターなどで説明会を開催されてきたと思いますが、今後、追加で説明会を実施する予定はありますか。

【副市長】

現在、公民館での説明会を新たに企画しているところです。

【記者】

こちらはリリース予定でしょうか。

【副市長】

リリースを行う予定です。公民館での説明会は、一般の方にもご参加いただけるオープンな形で実施する予定です。

【記者】

まんぷく券についてお伺いします。現在の利用状況を教えてください。

【農政企画課長】

12月末時点で、子育て世帯向けはおおむね65%、シニア向けは20%弱の利用率となっています。

【記者】

利用期限について、改めて教えてください。

【農政企画課長】

子育て世帯向け、シニア向けともに2月末までとなっています。

まだ利用期間が残っておりますので、ぜひ多くの方に使っていただきたいと考えています。市の広報でも周知を行っていますが、報道の皆さまにもご協力いただけますと幸いです。

【記者】

期間延長の予定はありますか。

【農政企画課長】

シニア向けについては2月末までで終了となります。なお、(3月開始予定の)第3弾については来年9月末まで利用可能です。

【記者】

第3弾の配送時期はいつ頃になる予定でしょうか。

【農政企画課長】

現在のところ、3月中旬の配送を目指して準備を進めています。できるだけ早くお届けし、余裕をもって利用していただきたいと考えています。

【記者】

知事選において、昨日、市長会として山田氏を推薦されましたが、そこに至った経緯や思いについて、この場で改めて教えていただけますでしょうか。

【市長】

繰り返しになりますが、市長会会長としての立場から申し上げます。これは私個人の考えではなく、県下の市長に共通する思いとしてお聞きください。市長会として山田氏を推薦した理由は主に三点あります。第一に、山田氏は現職・元職市長として市長会の一員であり、北陸新幹線をはじめとするさまざまな課題に連携して取り組んできた信頼できる仲間であることです。第二に、副知事や越前市長としての行政経験が豊富で、市長としての課題や現場感覚を十分に理解し、今後も同じ目線で県政を進めていける人物であると判断しました。第三に、北陸新幹線や原子力政策、幹線道路整備など、県政には早急な対応が求められる課題が多く、即戦力となる実行力が必要である点です。一方で、福井市長としては非常に悩んだ決断でした。市議会には石田候補予定者を支持する議員も多く、福井出身の若い世代が県政に挑戦することにも敬意を持っていました。しかし、産業団地整備や企業誘致、南通り再開発、福井県立大学のまちなかキャンパス、福井アリーナなど、県と市が一体となって進めるべき重要な課題が山積しています。これらを迅速かつ着実に進めるためには、県政と市政が円滑に連携できる体制が不可欠だと判断しました。その結果として、山田前越前市長が最も適任であるとの結論に至り、福井市長としては苦渋の決断であったと受け止めています。他の市長が先に意思を固める中、最後まで悩みましたが、最終的には（市長会の判断と）同じ考えに至りました。

【記者】

埋蔵文化財調査について、調査の開始が約2か月遅れているとのことですが、その要因について改めて教えてください。

【副市長】

調査が遅れているというよりは、もともと各種調整に一定の時間がかかることは想定していました。そのため、全体から見れば多少遅れている部分はありますが、現時点で深刻な影響が出ているとは考えていません。

【記者】

「調整」とは。市民の方にも分かりやすく、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。

【副市長】

道路や樹木の解体・撤去、機材のリース、土砂の掘削など、複数の業者が関わる工程があります。それぞれの作業の順序や調整に時間を要しており、そうした工程間の調整が主な要因です。

【記者】

事前の試掘調査はすでに実施されたという理解でよろしいでしょうか。

【副市長】

はい、試掘調査はすでに終了しています。現在の見通しでは、2月から本格的な発掘調査に入れるのではないかと考えています。

【記者】

見通しとして、発掘調査はいつ頃までかかる想定でしょうか。

【副市長】

発掘調査は単年度ではなく、2か年程度かかる見込みです。全体としては、来年いっぱい程度まで確認作業が続く可能性があると考えています。

【記者】

具体的には、2027年12月頃までに完了するイメージでしょうか。

【副市長】

概ねその頃、もしくはそれよりやや早い時期には完了させる必要があります。工事着工との関係もありますので、調査はそれまでに終える想定です。

【記者】

工事着工への影響はないという理解でよろしいでしょうか。また、いつ頃に着工する予定でしょうか。

【副市長】

はい。現時点では、工事着工に影響が出るとは考えておりません。今年の12月頃までには調査を終え、令和9年3月頃には着工する想定で進めており、スケジュール全体には支障はないと認識しています。

【記者】

アリーナに関して、これまで、市民への説明責任を果たすことが重要だというお話がありましたが、昨年までに実施した地元説明会やショッピングセンターでの広報イベントを通じて、現時点で市民の理解は十分に得られたとお考えでしょうか。それとも、まだ足りないとお考えでしょうか。市長の所感をお聞かせください。

【市長】

私としては、できるだけ多くの市民の皆さまに理解していただきたいという思いで、説明を継続しているところで、これで終わりという段階ではないと考えています。今後も引き続き丁寧に説明を行っていくとともに、アリーナに対する機運を高めていくことも重要だと考えています。こうした場での質疑応答や、ブローウィンズの活躍を応援することなども、理解を深めることにつながっていくのではないかと思います。現時点で理解が十分かどうかを明確に断言することは難しいですが、私自身の感覚としては、かなり多くの市民の皆さまから一定の賛同は得られているのではないかと受け止めています。今後も引き続き、説明を重ねていきたいと考えています。

【記者】

交付金を 1 月に申請した場合、交付金の決定時期はいつ頃になる見通しでしょうか。

【副市長】

今回申請する交付金は令和 8 年度分となりますので、最終的な決定は国の判断になりますが、時期としては 4 月から 5 月頃になるのではないかと見込んでいます。

【記者】

アリーナのスケジュールについて、本体工事の着工が令和 9 年 3 月との説明でしたが、経済界の事業計画には 1 月頃から記載されていました。これは遅れているという認識でしょうか。

【副市長】

認識のずれがあるわけではありません。経済界の計画に 1 月頃と記載されているのであれば、その時期に合わせて進めていく必要があると考えています。最終的な完成時期に影響が出るのではなく、工事の終了時期をきちんと見据えた発注を行っていきます。

【記者】

県市長会の決定時期についてお伺いします。仕事始めのタイミング以外に、何か別の要因はあったのでしょうか。

【市長】

特別な意図があったわけではありません。できるだけ多くの市長が集まれる日程を考えた結果、4 日がぎりぎりのラインでした。各市長の都合を踏まえた判断であり、意図的にその日を選んだものではありません。

【記者】

3 日まで悩まれて決断されたとのことですが、そのタイミングで決めた理由がありますか。

【市長】

心理的な部分も含め、これ以上引きずるわけにはいかないと考えました。他の市長の意思も確認した上で、自分が決断する必要があると判断しました。休みの間に整理したいという思いもあり、そのタイミングとなりました。

【記者】

（アリーナの）開業までのスケジュールについて、（11 月の特別委員会での）市の資料では 3 月頃、経済界の（8 月に出した）資料では 1 月頃となっています。この違いはどのように理解すればよいでしょうか。

【副市長】

認識のずれはありません。資料上の表現の違いはありますが、基本的には経済界が示している 1 月頃を念頭に進めていく考えです。現時点で完全に確定しているわけではないため、今後調整していきます。また、埋蔵文化財調査の開始が若干遅れていますが、アリーナ建設全体のスケジュールには影響しないと考えています。

【記者】

アリーナ整備にとって、今年 1 年はどのような年になるとお考えですか。

【市長】

当初の完成目標に向けて、順調に進めていくための大事な 1 年だと考えています。市としてやるべきことをしっかり行い、計画通り進められるよう努力していきたいと思います。